

川・渡月橋・山への眺望を阻害しない「可動式止水壁」



「史跡及び名勝」指定当時の石積みの再現を目指して



嵐山左岸溢水対策 完成





「嵐山左岸溢水対策」完成までの歩み

「史跡及び名勝」に指定されている桂川嵐山地区では、学識経験者や地元の皆様からご意見をいただきながら、国・京都府・京都市が連携し、景観や利用に配慮した治水対策を検討し、3つの治水対策*を行うこととなりました。そのうち「可動式止水壁による左岸溢水対策」が令和4年3月に完成を迎えました。

*「可動式止水壁による左岸溢水対策」、「一の井堰改築」、「堰改築を含む派川改修」の3つ



1 堤防形式(固定式止水壁から可動式止水壁へ)

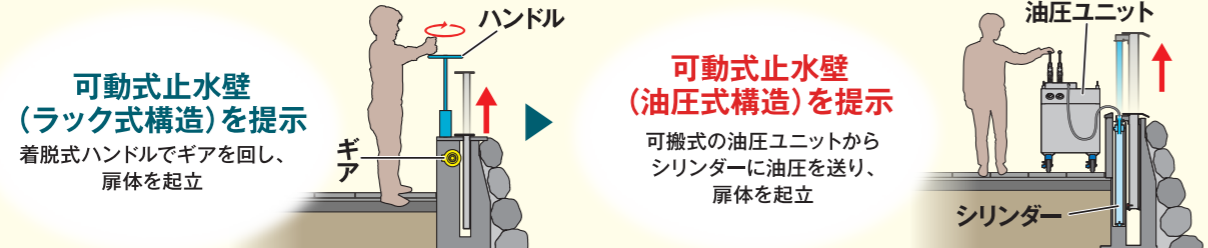
当初は、早期に着手可能な「計画高水位までの道路のかさ上げ+固定式止水壁」案を提示しましたが、眺望を阻害する恐れがあり、地元の皆様から「必要な時に現れることで景観を損ねないようにできないか」「景観に溶け込むような構造はないか」等の意見が出され、可動式止水壁の検討に着手しました。



計画高水位までの道路かさ上げ+固定式止水壁イメージ

2 構造形式(ラック式構造から油圧式構造へ)

可動式止水壁の起立構造について、当初はラック式構造を検討しましたが、実物大模型で操作性を検証したところ、洪水時のギア部への砂の侵入や経年的な部品の劣化等による操作性の低下等が判明しました。そこで、操作リスクを軽減するために油圧式構造に変更しました。



3 意匠

「川・渡月橋・山を望む視点場として、それらが主役となるように自己主張を抑えること」「歴史的な雰囲気や周辺施設との調和を図ること」をデザインコンセプトとして意匠を検討しました。

川側 「史跡及び名勝」指定当時の石積み姿を参考に、石材の選定や石の積み方を検討しました。

歩道側 周辺施設との調和や堤防と歩道に一体感が感じられる材料について、現地での実物サンプル配置等を通じて学識経験者や地元と意見交換を行いながら選定しました。

令和4年3月完成



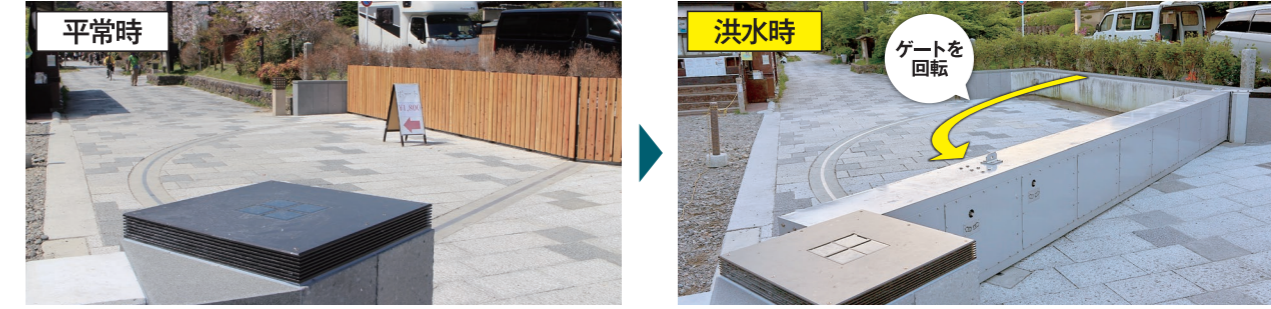
① 可動式止水壁

可搬式の油圧ユニットからシリンダーに油圧を送り、扉体を起立します。



② スイングゲート

スイングゲートを回転させて閉め切ります。



平成16年台風23号洪水と同規模の洪水が川から溢れなくなりました。